

竜巻から身を守る



竜巻はなぜおこる?

竜巻は、積乱雲(モクモクとした、雷や、ひょうをもたらすこともある入道雲の仲間)によってつくられる、大気中の激しいうずまきです。

アメリカではたくさんの竜巻が発生しており、多くの犠牲者を出しています。わが国でも、平成3年から平成19年の17年間で、平均すると19個ほどのたつまきが発生し、なかには死者も出るような大きな被害をもたらしたものもあります。

竜巻注意情報をご存知ですか?

「竜巻注意情報」は、積乱雲の下で発生する竜巻やダウンバーストなどによる激しい突風に対して注意を呼び掛ける気象情報で、沖縄気象台では、今、まさに竜巻の発生しやすい気象状況になっている場合、「竜巻注意情報」を発表しております。

※現在の観測・予測技術では、竜巻等激しい突風の発生を事前に予測できない場合もあります。

ダウンバーストとは?

積乱雲から吹き下ろす下降気流が地表に衝突して水平に噴き出す激しい空気の流れです。

竜巻の大きさや寿命は?

竜巻は水平規模が数十メートルから数百メートル程度の大きさの現象で寿命は数分から十数分です。

竜巻発生の前兆現象

1. 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
2. 雷鳴が聞こえたり、雷光が見える
3. 急に冷たい風が吹き出す
4. 大粒の雨や「ひょう」が降りだす

上記の異変を感じたら頑丈な建物に移動

竜巻からの身の守り方 屋内にいる場合



- ◎丈夫な机・テーブルの下に入って、身を守るようにしましょう。
- ◎大きな窓のある部屋、窓ガラスの側は危険なので、近づかないようにしましょう。
- ◎1階の窓がない部屋に移動します。
- ◎窓やカーテンを閉めます。

竜巻からの身の守り方 屋外にいる場合



- ◎学校の校庭、ビルの近くにいたときは頑丈な構造物の物陰や建物の中で身を守りましょう。
- ◎建物から飛び散ったガラスの破片でケガをすることがあるので、風下の壁のそばに退避しましょう。
- ◎退避する適当な建物が見当たらないとき、側溝やくぼ地などの低地で身を守りましょう。

- ◎物置、車庫、プレハブの中は危険なので、より丈夫な建物に退避しましょう。
- ◎サッカーゴール、仮設テントも突風・竜巻で被害を受けることがあるので、退避しましょう。
- ◎電柱や樹木が竜巻で倒壊することがあるので、近づかないようにしましょう。

不発弾から身を守る



戦後 60 年あまり、なおも残る不発弾!

不発弾とは

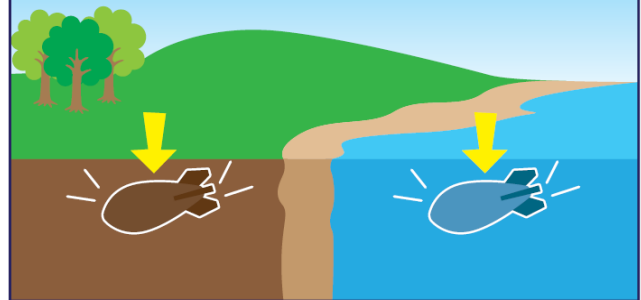
不発弾は、沖縄戦で使われた大砲の弾や飛行機から投下された砲弾、手で投げる手榴弾などが何らかの原因で爆発せず、危険な状態で残った弾薬等があります。それらの不発弾が開発や造成工事中によく見つかっています。このような不発弾は起爆装置が解除されており60年あまりたった今でも爆発する可能性がある非常に危険なものです。また、長い年月によって風化され、姿、形が変わりはててしまい、見分けがつかない場合もあります。

不発弾を見つけたら (不発弾かな?と思ったら)

- ・絶対に触らないで下さい。
- ・その場から動かさないで下さい。

陸上で見つけたら
すぐに警察へ
110番しましょう。

海中で見つけたら
すぐに中城海上保安部
へ連絡しましょう。



市内で見発見される主な不発弾

● 砲弾	150~50cm	● 手榴弾	5cm
59~21cm		10cm	
● ロケット弾	43cm		
6cm			
● 追撃砲弾	24cm		
6cm		11cm	